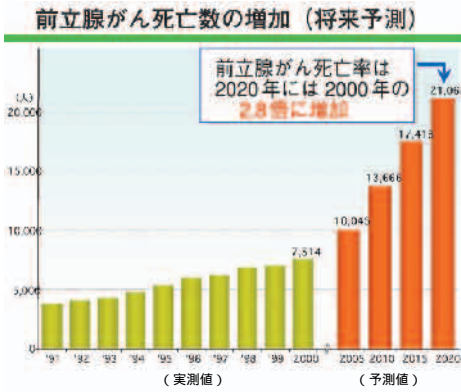


シリーズ第18話

進行性前立腺がんになる前に PSA検診を受けましょう。

近年、日本では高齢化、生活の欧米化に伴い、前立腺がんの患者さんが年々増加傾向にあります。2020年には男性におけるがんの罹患率が肺がんに次いで第2位になると予想されています。これに伴い、死亡者数も増加し、2020年には2000年の約2.8倍になると予想されています。



黒石哲生ほか:がん・統計白書 - 罹患/死亡/予測-2004.p28.p228(権原出版社)No.7

前立腺がんが発生すると血液中に大量に流れ出すPSA(前立腺特異抗原)の量を測定する検査の重要性が叫ばれています。が、まだあまり普及せず、前立腺がんの患者さんの約40パーセントは、既に他の臓器に転移がある進行がんで見られているのが現状です。

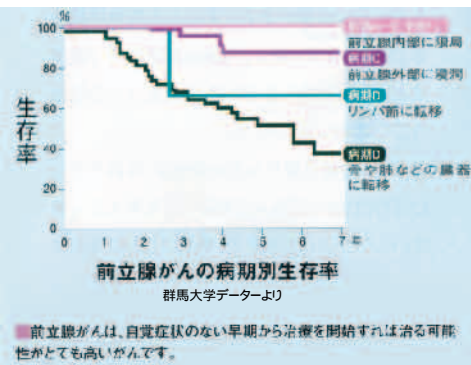
前立腺がんは進行がんになるまで自覚症状がほとんどない場合が多く、骨に転移し痛みが出て整形外科にかかり、検査してみると前立腺がんが見つかるという場合もあります。

患者さんに「あなたは前立腺がんですよ」とお知らせすると、「排尿障害もなかったし、血尿もなかった。まさか自分が前立腺がんだったとは!」と絶句される方がいらつしやいます。そのたびに私は「PSA検診を受

前立腺がんが発生すると血液中に大量に流れ出すPSA(前立腺特異抗原)の量を測定する検査の重要性が叫ばれています。が、まだあまり普及せず、前立腺がんの患者さんの約40パーセントは、既に他の臓器に転移がある進行がんで見られているのが現状です。

前立腺がんは進行がんになるまで自覚症状がほとんどない場合が多く、骨に転移し痛みが出て整形外科にかかり、検査してみると前立腺がんが見つかるという場合もあります。

患者さんに「あなたは前立腺がんですよ」とお知らせすると、「排尿障害もなかったし、血尿もなかった。まさか自分が前立腺がんだったとは!」と絶句される方がいらつしやいます。そのたびに私は「PSA検診を受



かけていけばもっと早い段階で見つかったのに」と悔しい思いをしています。

前立腺がんは早期に見えればさまざまな治療法があり、高い確率で完治させることができる病気で、怖い病気ではないと思っています。しかし、進行がんになると生存率がグッと低下しています。

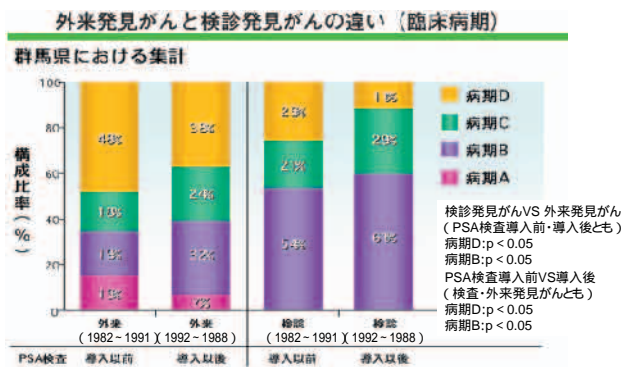


新城市市民病院 泌尿器科
診療部長 高田三喜

PSA検診は血液検査だけの簡単な検査で、泌尿器科以外のかかりつけ医でも検査を受けられます。また、健診・人間ドックのオプションとしてこの検査を追加することもできます。一部の自治体では積極的にPSA検診を取り入れ、前立腺がんの死亡率が下がったという報告があります。

男性は50歳を過ぎたら年に一度はPSA検診を受けましょう。

そしてこの新城から進行性前立腺がんをなくしましょう。



伊藤一人ほか:泌尿器科.13(8).997-1001.2000年一部改変 No.35